J.S.Bach Inventionen

バッハ　インヴェンション

第 *13* 番　イ短調　*BWV784*

- 楽曲分析と演奏法 -

著者：市花 真弓

目次

はじめに、バッハの作品を演奏するにあたって ・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

1. バッハ「インヴェンション」第 13 番 a moll BWV 784 楽譜 ・・・ 4

2. 主動機と対位について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

3. バッハ「インヴェンション」第 13 番 a moll BWV 784
第 I 展開部の楽曲分析と演奏法について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

4. バッハ「インヴェンション」第 13 番 a moll BWV 784
第 II 展開部の楽曲分析と演奏法について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

5. バッハ「インヴェンション」第 13 番 a moll BWV 784
第 III 展開部の楽曲分析と演奏法について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

6. 楽譜に 3〜5 のアナリーゼの内容を表記しました。
テンポ、強弱も記しました。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

■はじめに

2003年度からメールマガジンの配信システムを利用しました音楽講座としまして、「バッハ インヴェンションを弾いてみよう！- 楽曲分析と演奏法 -」の発行を始め、2012年にPDF書籍版に移行致しました。思いがけず、多くの皆様にご利用頂け、パソコンの前で頭が下がる思いでおります。

この度、全15曲のPDF書籍、それからYou tube講座の全面作り直しをする事と致しました。

ピアノ初心者の方、それから、最近はコンクール課題において、小学5, 6年生がインヴェンションを演奏しているようです。そういった子供達にも理解出来るように制作したいと考えています。

（2019年3月）

■バッハの作品を演奏するにあたって

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ（*Johann Sebastian Bach* 1685-1750）は、ドイツの作曲家でバロック音楽の重要な作曲家の一人です。「音楽の父」と称される音楽家でもあります。

バロック音楽というのは、ヨーロッパにおける17世紀初頭から18世紀半ばまでの音楽の総称です。バロック音楽の作曲家は、ジュリオ・カッチーニ（1545-1618）（イタリア・ルネサンス音楽末期、バロック音楽初期の作曲家となります）、ドメニコ・スカルラッティ(1685-1757)、アントニオ・ルーチョ・ヴィヴァルディ(1678-1741)、ヨハン・ゼバスティアン・バッハ(1685-1750)、ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル（1685-1759)などが上げられます。

今から300年くらい前の時代です。ピアノという楽器はありませんでした。ピアノの原型にあたりますチェンバロ（独：*Cembalo*, 伊：*clavicembalo*）で演奏されていました。このチェンバロは、英語ではハープシコード(*harpsichord*)、フランス語ではクラヴサン(*clavecin*)といいます。

ピアノとチェンバロの違いは、まず、チェンバロにはペダルがない事があげられます。ですので、今日、ピアノでバッハを演奏する場合にも、基本的にはペダルは使用しません。次に音を出す原理が違います。ピアノは、弦をハンマーで叩くことで音が出ます。しかし、チェンバロは、爪状のプレクトラムで弦を掻いて発音します。ですので、チェンバロではピアノのようなダイナミクスな演奏は出来ません。

それから、バッハの音楽は対位法的音楽です。多声音楽で出来ています。多声音楽の事をポリフォニー(*polyphony*)といいます。ポリフォニー(*polyphony*)の対義語としては、ホモフォニー(英語：*homophony*、独語もしくは仏語：*Homophonie*）となります。和声音楽です。

曲集に採用されています15調は、ハ長調ーハ短調ーニ長調ーニ短調ー変ホ長調ーホ長調ーホ短調ーヘ長調ーヘ短調ートト長調ートト短調ーイ長調ーイ短調ー変ロ長調ーロ短調　と 嬰ヘ短調、嬰ハ短調、変イ長調を除く15調が上行形に整えられています。（シャープ、フラット４つまでの調です。）このように調が整えられている事も、バッハの作品の特徴とも言えます。

Inventio 13

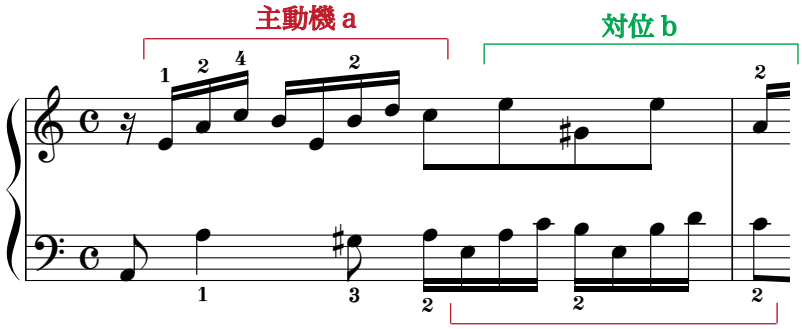
Johann Sebastian Bach
BWV 784



2. 主動機と対位について

第 13 番は、殆ど分散和音で作られた曲です。インヴェンション全 15 曲の中で比較的人気のある曲だと思います。

主動機と対位です。



この曲は、”主題”という表現よりも”主動機”。”対旋律”という表現よりも”対位”が適当と思います。この八分音符による対位は、ノンレガートで演奏して下さい。

装飾記号は全く使われていません。テクニック的には難しくないインヴェンションだと思います。

版による音の違いについては、15 小節上声第 1 拍中の A 音を As 音としている版もありますが、原本は A 音となっています。

